地域医療支援病院 富山市民病院

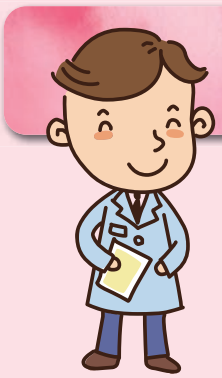
れんけいと支援

No.223
2022.11月号

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

Face to Face, Heart to Heart

富山市今泉北部町2-1／Tel: 076（422）1112㈹ http://www.tch.toyama.toyama.jp／発行日 2022年11月



下肢閉塞性動脈疾患の治療について

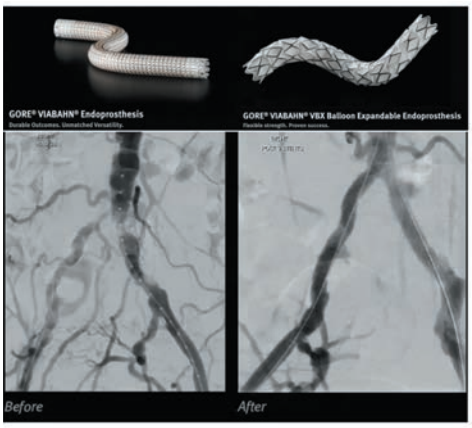
血管外科　酒井　麻里

下肢閉塞性動脈疾患（LEAD:lower extremity artery disease）は高齢化や糖尿病患者・透析患者の増加に伴い、有病率が高くなってきています。

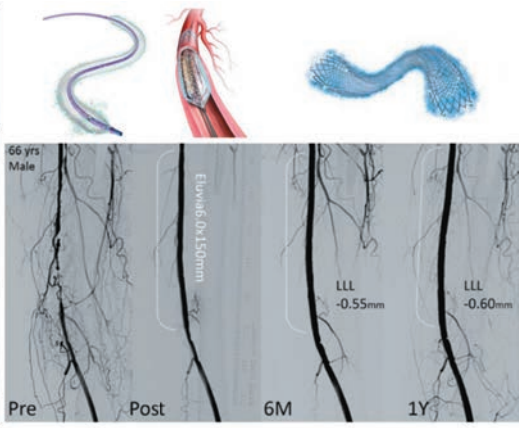
LEADの治療は、間欠性跛行を有する患者さんに対してはまず、動脈硬化リスクファクター管理、薬物療法、運動療法を行い、改善が乏しい場合は血行再建術を考慮します。

血行再建術に関してはバルーンやステント等の血管内治療や内膜摘除術、バイパス術等の外科的治療、またこれらを組み合わせたハイブリット治療があります。

近年、血管内治療に用いられるデバイスの選択肢が増え、低侵襲治療でありながら安定した成績が得られるようになってきています。大動脈～腸骨動脈病変に対してはステントグラフトが2018年より保険適応となり、大動脈分岐部病変や高度石灰化・閉塞病変等の複雑病変に使用することが可能となりました。また、浅大腿～膝窩動脈病変に対しては、ステントグラフトやパクリタキセルを塗布したdrug-eluting stent（DES）、drug-coated balloon（DCB）が保険適用となり良好な治療成績を得ています。LEADによる間欠性跛行にお困りの患者さんがおられましたら、当科へ御紹介ください。



GORE® VIABAHN® VBX Balloon Expandable Endoprosthesis|Gore Medical Asia Pacific



Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, 29 Jun 2019, 27(2):164-171

12月分 研修・講演・学習会のご案内

1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

※会場またはWEBでの参加が可能です。

※12月は、症例検討2例、ミニレクチャー1題の拡大版で開催いたします。
先生方のご参加をお待ちしております。（日本医師会生涯教育制度のカリキュラムコードの付与は、3つとなります。）

日 時：12月13日（火）　19：00～　場所：当院３階　講堂

1）症例検討

（1）臼蓋の高度骨破壊を伴う変形性股関節症に対して
KT-plateを用いたPrimary THAの1例
整形外科　岩井信太郎

（2）心アミロイドーシスによるうっ血性心不全に対して
イバブラジンが有用であった1例
循環器内科　向井　勇介

2）ミニレクチャー
『当院における大腸悪性狭窄に対する内視鏡的大腸ステント留置術について』
消化器内科　北　恵太

大腸癌などによる消化管狭窄および閉塞は、経口摂取が困難となり栄養状態や全身状態の悪化をきたす。従来、閉塞性大腸癌に対しては緊急手術を行い、人工肛門を造設するのが一般的であった。しかし緊急手術は合併症のリスクが通常よりも高く、人工肛門造設後の管理など患者さんのQOLの低下が懸念される。当院では術前における閉塞解除（Bridge to surgery; BTS）はもちろんのこと、根治的治療が困難な症例における緩和治療（Palliative; PAL）を目的として、積極的に内視鏡的大腸ステント留置術を行っている。今回、当院で大腸悪性狭窄に対して施行した内視鏡的大腸ステント留置術59例について検討した。BTSが38例（64.4%、平均75.6歳）、PALが21例（35.6%、平均82.9歳）であり、PALのうち経過を追えた15例について、ステント留置から死亡までの平均日数は108.9日（11～263日）であった。ステント留置後の経過が長くなった症例では穿孔、再閉塞などの晩期合併症もみられたが、人工肛門造設を回避したうえで一定期間経口摂取が可能となるため、患者さんの負担軽減およびQOL向上の点で有用と思われた。数例の症例報告を交え、当院での内視鏡的大腸ステント留置術の現況について報告する。

予告

※1月の地域連携症例検討会の開催はありません。
次回の開催は下記のとおりです。ご参加をお待ちしております。

日 時：2月14日（火）　19：00～20：00（ハイブリッド開催）
場 所：当院3階　講堂
内 容：①症例検討　1例　（担当）　脳神経外科
②ミニレクチャー　1題　（担当）　麻酔科・ペインクリニック

地域連携症例検討会に関しては、今後もWEBを利用したハイブリッド方式で開催していくことを計画しています。つきましては、ZOOM会議のご案内に関して参加される先生方の利便性に鑑みURLならびにQRコード等をお送りするため、下記のメールアドレスへ①貴施設名　②氏名を明記の上、メール送信いただきますよう、よろしくお願いいたします。一度登録していただければ今後継続してご案内をメールでお送りいたします。

ttm2168@tch.toyama.toyama.jp
（ふれあい地域医療センター　地域医療連携室）

作：病院ボランティア 篠崎 佳子

2. 定例の研修会、看護研修

※COVID－19の状況を見ながら再開の予定です。

「NO」卒中！！早くみつけて予防しよう

脳卒中リハビリテーション看護エキスパートナース
山口千寿、山崎浩子

脳卒中とは脳の血管が詰まる【脳梗塞】、脳の血管が破れて出血する【脳出血】、脳の血管に瘤（コブのようなもの）ができ、それが破裂する【クモ膜下出血】に分けられています。脳卒中になると、損傷した脳の場所により手足が動かなくなったり、喋ることができなくなったりと症状が様々です。

脳卒中は日本人の死亡原因では4位ですが、脳卒中の後遺症である麻痺や失語などにより介護が必要となる原因の2位です。後遺症が大きければ大きいほど、家族の負担も大きくなり介護が必要となります。

そんな脳卒中を予防するためには、【高血圧】【脂質異常】【不整脈】に注意が必要で、【糖尿病】【多量飲酒】【たばこ】【運動不足】【肥満】が更に脳卒中のリスクを高める原因となります。また、これから気温も低くなり寒くなると急な温度変化により血圧の値が変動し出血のリスクが高くなります。入浴時は脱衣所をヒーターで温め、入浴前には水分補給、浴室はシャワーや湯船の蓋を開け湯気で温めるなどの工夫をしてください。

また脳卒中を見つけるためのサインがあります。FAST（ファスト）、F：Face（顔）、A：Arm（腕）、S：Speech（言葉）、T：Time（時間）です。顔・腕・言葉のうち1つでも当てはまれば80％脳卒中を疑うため早急な病院受診をおすすめします。

F	A	S	T
Face かお	Arm て	Speech ことば	Time じかん
片側が下がる ゆがむ	片側が上がらない下がっていく	言葉が出ない ろれつが回らない	いつから？ 急いで行動せよ！ 脳卒中は 時間との戦い
顔の麻痺	腕の麻痺	言語の障害	時間を確認

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

12月

科名	医師名	不在日
整形外科・関節再建外科	岡本	2日
麻酔科	髙木	13日
精神科	仲間	8日
形成外科	岸田	23日
麻酔科	野村佳	16日
	大村	1日、9日

科名	医師名	不在日
呼吸器・血管外科	酒井	27日
眼科	山田芳	19日、26日
耳鼻いんこう科・頭頸部外科	辻	7日
歯科口腔外科	寺島	5日、13日
	高橋	15日
	朽名	16日、23日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112（代）内線2168

編集後記

11月8日、夜、丸い月が、徐々にかけていく様はまさに幻想的でした。さらに今回の皆既月食では、多くの地域で月が地球の影に完全に覆われた「皆既食」中に月の後ろに天王星が入り込む天王星食も同時に見られ、日本では442年ぶりとなる天体ショーでしたね。私は帰宅途中だったので、信号待ちのときにみていましたが、皆さんはどなたとこの珍しい天体ショーをご覧になられましたか。

常日頃、仕事に追われ（家事には追われていませんが・・・笑）、帰宅時には「今晩、何を作ろうかなあ」と考える毎日でしたが、心が和む一時でした。星座には詳しくはないのですが、これから見えるかもしれない星座を調べて、時々空を見上げてみようかと思います。

看護部　水落　治江

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。
送付を希望されない方はお申し出ください。
TEL 076（422）1112㈹／FAX 076（422）1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp
ホームページ http://www.tch.toyama.toyama.jp/　がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp